

応県木塔

鄧仁有

皆様、これから応県木塔にご案内します。

この塔は1036年に建立されました。正式名称は仏宮寺釈迦塔です。

当時は遼^注の時代で、応県は西京行政府(西京道)の一部でした。いったい何のために中心都市・京城(大同)から遠く離れた応県に巨大な塔を建てたのでしょうか? 民間の伝承と文献の記載によると3つのことが考えられます。

まず一つには仏像を礼拝することです。遼の支配者は仏教を厚く信仰していたので、各地に多くの寺院を建立しました。

二つ目は敵情を偵察するためです。当時、遼と宋は頻繁に戦争があり、応州はその戦闘地区にあたっています。ここに高い塔を建てれば、間違いなく軍事の目的が果たせます。今、塔にある「金城戎楼」という扁額がその証拠です。戎^{じゆう}という文字は戦争の意味です。



応県木塔。正式名称は仏宮寺釈迦塔
(Googleパノラミオから転載)

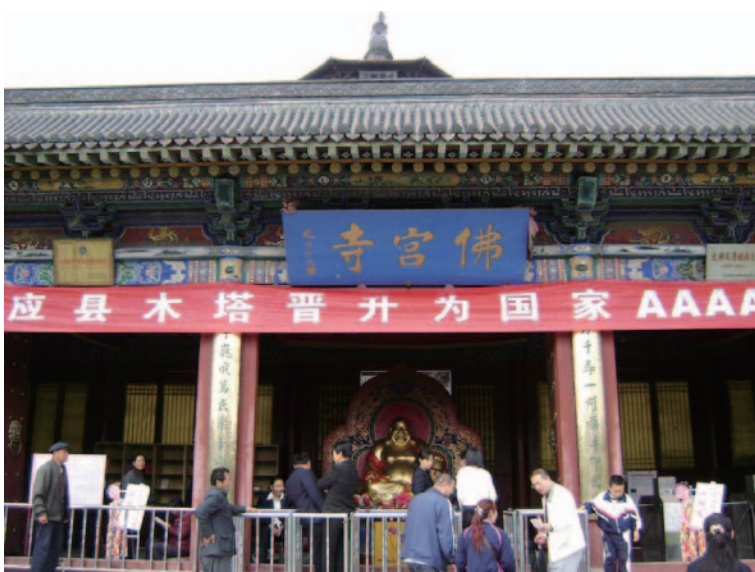
もう一つは遠景を見晴らすためです。遼の興宗帝の肅皇后は応州出身でした。興宗帝に深く寵愛された皇后は、高い塔を建て、塔に登って故郷の風景を見晴らすことが楽しみではなかったでしょうか。文献の記載によると、この塔は肅皇后の実家の出資により建てられたものです。

この木造の塔は高さ4mの土台の上に67mの塔が建てられ、塔の底の直径は30m、平面八角形を呈しています。

この木塔の設計全般は科学的で厳密であり、完璧な構造を持ち、外からは五層に見えるが、一層ごとに暗層(中二階)が付き、実際は九層です。何故九層になっているのでしょうか? 九という数字は皇室の最高位を意味するものです。九は密教でも重要な意味を持っていて、例えば、8体の仏陀が大日如来を囲んでいるとかです。各層の外側には24本の柱、中には8本の柱が建っています。その間に多くの斜めの支え木、梁、角材などがあり、異なる方向に向かった複雑は構造を成しています。

この木塔はこれまで950年の長い年月の中で数十回の大地震に耐えてきました。史書によると、木塔ができてから300年後にマグニチュード6.5の地震が起き、余震が7日間続き、他の建物は全部破壊したのに、この木塔だけは残りました。

1926年閻錫山と馮玉祥の軍閥間の戦争で、木塔は200発もの砲撃を受けても破壊されなかったのです。この木塔の構造は科学



応県木塔のある仏宮寺 (Googleパノラミオから転載)



塔内第二層の塑像（ウィキペディアから転載）

的な設計に基づいて作られています。例えば、耐震力が強いのは現代建築にも見られる多くの手段が用いられています。次に、柔軟性を持つ材料を使い、外部からの強い衝撃があっても変形しにくくなっています。また、ある程度の原型を回復する能力を持っています。しかも組み立て構造での各節目には、いずれも凸部と凹部の結合方式を利用し、一定の柔軟性をもたせていることです。木塔の外からは見えない四つの所謂暗層は塔全体の構造を強化し、多くの料拱（枅形）は弾力を持ち、外部からの強い圧力を受けてもそれを軽く出来る非常に良い耐震性能がそなわっています。

専門家によるとこの塔は54種類、240組それぞれ違った様式の料拱を使っているので、「料拱の博物館」とも呼ばれています。天辺には八角形で尖った鉄刹を立ててあります。この鉄刹は仏教の世界を象徴しています。蓮の花型の台座、相輪（塔の崇高さを表す）、火焰と宝瓶、宝珠からなります。

この塔が落雷にあっても被害を受けないのは、この鉄刹が装飾だけではなく、避雷針の役目を果たしているからです。また塔の周りの8本の鎖は雷による電流を地下に導くのです。以上のような避雷装置があったからこそ、木塔はこれまで持ちこたえて来たのです。

塔の五層はそれぞれ別個の寺院としての機能をもっており、三つの同心円の構造になっています。

中心部は神聖な内層と呼ばれ、仏像数体が安置されています。その外側は信者たちがお経を唱えながら歩き回れる空間となっています。そして、全体を取り囲むように欄干がめぐらされています。この欄干からは応景の田園風景を見下ろすことができます。

一階正面には、高さ11mの遼代の色彩塑像のお釈迦様が祀られています。このお釈迦様は説法印の動作をしています。特徴的なのは緑色の髭と耳飾りをつけていることです。当時の契丹族の男子は髭

を生やすのが流行だったそうですが、何故緑色になっているのか、一つの謎です。また、仏像の頭上には八角形の精巧な天井があります。周りの壁には高さが8mもある6枚の仏像や脇侍菩薩の壁画があり、門の両側には金剛や天王、弟子などの壁画があり、描き方が形式にこだわらず生き生きして真に迫っています。南、北の門の上には契丹族の民族衣装をつけた6体の供養人が描かれています。

1974年、第四層の仏像を修繕した時に、その内部から貴重な経文が発見されました。特に「遼代彩印」は我が国の印刷史を輝かせるもので、経巻の長さは30m以上にも達し、中国でも貴重なものです。そして、弟子たちに取り囲まれた仏陀の姿が描かれたものは、中国の彩色印刷の最も古い傑作です。

二階にはお釈迦様と文殊、普賢の脇侍菩薩二体が祀られています。

三階には八角形の須弥壇上に四方仏が祀られています。東方の阿闍仏、西方の阿弥陀仏、南方の宝生仏、北方の成就仏です。またこの三階には「釈迦塔」と描かれた額がかかっています。この額は優れた書というだけでなく、塔の修復の年代などが記録してありますから、この塔を研究する得難い資料となっています。

■注

遼：916年～1125年まで、内モンゴルを中心に東は渤海までの中国の北辺を支配した契丹人耶律氏の征服王朝。